

Management Club Report

Jul.2020/Vol.211

Monthly Opinion 《コロナ禍をドンと受けとめる》

世界中に今回の新型コロナウイルスの感染が拡大し深刻な状況を現出し始めたところ、スウェーデンの感染症対策の独自性が注目を集めました。詳細な内容と専門的な評価は分かりませんが、平たく言うと保菌者が増え国民全員に抗体ができることでウイルスを無力化するということのようにでした。

現在の我が国の感染者数の増加に危機感を抱く学者の方がいる一方、積極的に検査数を増やしていることによる当然の結果であることと、感染者といえども無症状や軽症者が多くを占めていることから、警戒感を持ちながらもウイルスの種類の相違など、かつての緊急事態宣言発出当時とは違う状況にあると唱える学者の方もいるようです。

テレビのニュースショーもこの話題ばかりで些かうんざりさせられますが、元厚労省の技官であった女性コメンテーターが、スウェーデンにおける考え方に近い発言をしていました。もしそれが、治療薬やワクチンが完成するまでの間、感染症対策としてのやむを得ぬ方法であるならば、個人個人が日常生活における手洗い、うがい、歯磨きを徹底し、栄養を付け体力を強化するなど、保菌者となっても発症しない免疫力を高めながら、一方では保菌の可能性も念頭に、三密回避とマスク適切着用のルールを厳守するなど人に移さない努力を怠らないことしかないと思います。

そのような地道な努力を続けながら、経済活動を活性化させていく工夫を併行させていかなければ、コロナによる犠牲をはるかに超える痛手を被ることになりかねません。

今月はそのような大きな問題ではありませんが、私たちの日常の中で起きている『コロナがもたらしたマイナス』について一考を加え、負のスパイラルに陥らないための対応を考えて参ります。

1

コロナ禍という有事が引き出した本来の熱と情

院長のスタッフへの温かさに触れたメルマガ

めっきり件数が減少しておりました訪問型の院内研修ですが、少しずつ戻り始め、当社も何とか一息つくことができるようになりました。そのような中、訪問先で直に触れることができた院長の熱い思いに心打たれた向が、スタッフに対して意識高揚を督励する文章を、今月後半のメールマガジンに万感の思いを